

# 令和3年度第2回県立高校将来構想検討協議会における協議の概要について

## 1 開催日時、会場

令和3年7月12日（月）午後3時～午後5時  
県庁4階 共用第2会議室

## 2 協議の概要

### (1) 次期将来構想の構成の確認について

第1回協議会での意見を踏まえて修正した構成について、事務局から説明

### (2) 高校教育を巡る現状と課題について（アンケート結果）

本年4月～6月に実施した生徒・保護者及び山口県企業を対象としたアンケートの結果について、資料をもとにシンクタンク（株式会社日本総合研究所）が説明し、協議

### (3) 今後の県立高校の在り方について

めざすべき県立高校像、教育活動の充実及び教育環境の充実について、資料をもとに事務局が説明し、協議

### (4) まとめ

今回の意見を踏まえながら、めざすべき県立高校像等について事務局がまとめることで全委員が了解した。

次回は特色ある学校づくり、学校・学科の再編整備等について協議をする予定

## 3 委員からの意見

### (1) めざすべき県立高校像

- 社会に出る前段階の高校では、人とのつながりや支え合いを大切にする心を育むためにも、多様な人々との協働、切磋琢磨する環境づくりが必要である。
- キャリア教育を充実することによって、社会に出ても学び続けるという意識付けができるのではないか。
- 子どもたちの志や自己の実現につながる学校をつくることが重要ではないか。
- 小規模校を否定するものではないが、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開など、高校教育の質の確保・向上を図るためには、一定の学校規模が必要だと感じる。
- 県境では、小・中学校段階から隣県に進学する子どもたちがおり、この流出を止めるためには、子どもたちが「この学校に行きたい」と思うような魅力ある学校づくりが重要である。
- 地域と連携した取組を通して、子どもたちの郷土への愛着や地域や社会に貢献しようとする態度が育成される。
- 高校生が山口県の良さを知る機会をつくって、山口県に戻ってきたくくなるような特色ある学校づくりを更に推進してほしい。
- 県立高校の将来構想ではあるが、山口県の高校教育全体を俯瞰して、公立高校と私立高校が共存することは大切だということにも触れてほしい。

## (2) 教育活動の充実

- 地域の活性化に貢献する高校ならではの取組や、他の学科や教科等の横断的な学びは、自分の夢を見つけたり、進路実現に向けて意欲的に取り組んだりすることにつながるため重要である。
- 社会や将来とどうつながっているのか考える課題解決学習など、自分たちで課題を発見し、協働して解決する力を身に付けることが大事。そのため、理数科や探究科のような学科等で実践している地域・社会と連携した協働的な探究学習がますます重要になってくる。
- コミュニティ・スクールの仕組みを生かした小高連携、中高連携の取組など、高校生の自己肯定感を高めることにつながる教育活動の充実が重要である。
- 山口県の次代の産業界を支える人材を育成するためには、地元企業や大学と連携した、自ら考える課題解決学習を充実していくことが重要である。
- 共生社会の実現のため、全ての子どもたちが「わかる」「できる」授業を推進してほしい。

## (3) 教育環境の充実

- 専門高校では、専門分野の実験・実習を適切に行うには施設・設備が欠かせない。地元産業を支える人材育成のためにも、施設・設備の充実について検討してほしい。
- 子どもたちに充実した教育を行うためにも、学校の「働き方改革」は欠かせないものである。
- へき地や過疎地域等から遠距離通学する生徒に対する支援を是非お願いする。

## (4) その他

- 企業が高校生に身に付けてほしい資質として求めているのは、専門科目の知識以上に、熱意や意欲、コミュニケーション能力など、幅広い人間力であるということがアンケートからも分かった。
- 生徒・保護者のニーズに応えるよう、少子化の進行に遅れることなく再編整備を計画的に進め、一定規模の学校を県下に適正に配置してほしい。
- 1学級当たりの生徒数を減らし、1学年5～6学級の学校を3～4学級に減らすなどして、現在の学校数を維持できないか。